

会 議 録

名 称		令和6年度第2回中央区いじめ問題対策委員会
開催年月日		令和6年12月18日（水） 午後5時～7時
開催場所		中央区教育センター6階 会議室（わくわく2）
出席者	委員	神内 聡（委員長）、磯崎奈保子、鈴木眞理、小澤美和（職務代理者）、三宅美紀
	区側出席者	北澤教育委員会事務局次長、村上教育センター所長、深滝統括指導主事、小松指導主事、楡木管理係長、高木管理係主任
配布資料		資料 1 中央区いじめ問題対策委員会委員名簿 資料 2 中央区いじめ問題対策委員会事務局職員名簿 資料 3 中央区いじめ問題対策連絡協議会の協議内容について 資料 4 中央区におけるいじめの未然防止等の取組及び認知件数について
議事の概要等		1 開 会 2 教育委員会事務局次長あいさつ 3 委員長あいさつ 4 議 題 （1）中央区いじめ問題対策連絡協議会の協議内容について （2）いじめの認知件数について （3）いじめ発生事例の対応について（ケーススタディ） 5 閉 会
審議の経過		別紙のとおり

別 紙

令和 6 年12月18日開催
中央区いじめ問題対策委員会
審議の経過

1 開 会

- 事務局より中央区いじめ問題対策委員会条例施行規則第4条に基づき、会議は原則公開し、議事録作成のため録音する旨を説明

2 教育委員会事務局次長あいさつ

- 次長から挨拶

3 委員長あいさつ

- 神内委員長から挨拶

4 議 題

(1) いじめ問題対策連絡協議会の協議内容について

- 事務局から資料 3 について説明

〔概要〕

- ・ いじめ問題対策連絡協議会は、区内公立小中学校におけるいじめの未然防止、早期発見、早期対応の推進のために関係機関との連携を目的に設置している。
- ・ 第2回目（12月開催）の協議会では、いじめの対応における効果的な取組と課題について協議した。
- ・ 学校では、一人一人の教職員が気付いた全てのいじめやいじめの疑いがある状況を迅速に管理職や学校いじめ対策委員会に報告し、学校全体で情報共有して、教員個人の解釈に差が生じないように学校全体での共通理解を図ることを再確認した。
- ・ 効果的な取組として、学校からは、ふれあい月間以外にも実施するアンケートの活用、スクールカウンセラーの面談、教員同士の情報交換、OJTによる若手への研修、複数対応での事実確認や指導、毎日の時間割や日記を記入したりするデイリーライフの活用（中学校）などが挙げられた。
- ・ 議題としては、SNSのトラブルでの対応の難しさ、いじめに関する情報発信や周知などが挙げられた。
- ・ 課題に関する解決策として、学校からは、子供、学校、家庭、地域等、それぞれが日頃からのコミュニケーションを大切にし、情報収集や情報交換を密に行う、学校での組織的な対応、ふれあいアンケートやいじめに関する情報を積極的に発信する、デジタルシチズンシップ教育の充実などが挙げられた。

- ・ P T Aからは、家族間での話し合いを大切にしてい、児童館からは、遊んでいる様子からも小さなトラブルを見逃さないようにしていなどが挙げられた。

(2) いじめの認知件数について

○事務局から資料4について説明

〔概要〕

- ・ 資料では中央区の令和4年度、令和5年度のいじめの認知件数と令和6年度の10月31日までのいじめの認知件数をまとめている。
- ・ 認知件数の増加については、児童生徒に目を配り、軽微ないじめであっても見逃さないという早期発見の姿勢が根づき、早期解決のために積極的な認知が図られたことが一因と考えられる。
- ・ 区としては、生活指導主任連絡会や中央区いじめ問題対策連絡協議会において、当該児童生徒が苦痛に感じるような行為について、いじめと認知して指導することなどの指導を繰り返し行っている。認知件数の増加については、各校の教職員の意識の向上として肯定的に捉え、いじめの長期化・重大化を防ぐことにつながっていると考えている。
- ・ いじめの対応について、令和6年度は、小中学校ともに冷やかしか、からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるという内容が多く、何げない言葉のやり取りから、いじめにつながる可能性がある、周りの大人がアンテナを高くして、子供同士のやり取りを見取っていくことが大切だと考えられる。
- ・ 小中学校ともに軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりするという内容が多くなっている。
- ・ いじめの発見、訴えでは、小中学校ともアンケート調査など学校の取組による発見が大半を占めている。

【委員からの主な質問】 ➡は質問の対する回答

- ・ 学校以外からの関係機関の情報によって発見したというのが小学校で1件上がっているが、具体的にこれはどちらからの情報なのか。
- ➡プレディの職員が発見したものである。
- ・ 令和5年度の10月31日までの時点と比べてはどのような感じか。
- ➡令和5年度の10月31日までと比べると認知件数が増加している。
- ・ 今年度新しく小学校と中学校ができたと思うが、その学校数が増えたというか、生徒児童数が増えたこととも関連があることはかんがえられるのか。
- ➡小中学校の認知件数が増えているので、それも起因していると思う。

(3) いじめ発生事例の対応について（ケーススタディ）

- 委員長から個人情報保護の観点から、中央区いじめ問題対策委員会条例施行規則第4条第1項に基づき、会議を非公開で行う。
- 事務局よりケース内容を説明

5 閉 会

- 委員長から閉会のあいさつ